

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.70 2015年6月6日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

第5回 川崎郷土・市民劇 「華やかな散歩」

恒例の市民劇、好評のうちに終了

2年おきに開催されている「川崎郷土・市民劇」も第5回目を迎えました。5月8～10日、22～24日に行われ、好評のうちに終了しました。関係者の感想を寄せていただきました。次号でも引き続き掲載の予定です。

役者石山海の様々な顔が

石山 奈々絵

石山海は、「華やかな散歩」で、出征していくレコード会社社員「今井」を演じました、背の高い俳優です。今回は、石山の事を皆様にもっと知っていただきたく、一ファンとして、京浜協同劇団と、川崎市民劇、役者石山海のことを書いてまいります。

石山が、初めて京浜協同劇団に出演したのは、「収容所（ラーゲリ）からきた遺書」の、山本幡男役でした。辛い状況でも飄々として、時にユーモラスに、時に温かく、人々に希望を与える存在となる幡男役は、石山の元々持っている良さが出ていて、それを、思いがけず再発見できました。家でも困った時、大変な時など、この人の飄々とした一言に救われたりします。

第一回目の市民劇「多摩川に虹をかけた男」では、主人公をピンチから救う、腕っ節が強く正義感のある武士、藤十郎を演じました。殺陣の稽古に通っており、私も触発されて、木刀を買ってしまいました。



写真：©小池汪、以下同

「池上幸豊とその妻」では、主人公、池上幸豊役を演じました。奥様役との、「あ～ん」と食べさせたりする微笑ましいシーンに、私も「ふふふっ」と笑ってしまいました。育ちが良く、人を想う、若い領主を好演していました。

続く「枳形城・落日の舞い」。主演、稲毛三郎役でした。「同じ人なの?!」と、観る人が知ったら驚くのではないかと、もっと宣伝してあげたいな、などと思ったものでした。嫉妬に狂い滅びゆく武将。これまで石山の演じた中でも、一段と深みのある役でした。男の愛、情熱、嫉妬。本当にこういうドラマがあったのでは、



と思える、人の心を揺さぶる、素晴らしい作品でした。

そして、今回の「華やかな散歩」。今井さんに召集令状が届いたと電話を受けるシーンでは、日常の風景がガラッと変わるようでした。自分自身を奮い立たせるような、魂の応援歌、六甲おろしの力強い詩が、今井さんの、人々の、叫びとなって聞こえました。観に行った娘は、「パパ、帰ってくるんだよね?」と、ベソをかいていました。娘も声の出演をさせていただき、胸を張って誇らしく、家でも外でも劇中の歌の練習をしていました。



今回の芝居を観た友人から、こんな言葉を頂きました。

「誰でもができることじゃないんだから、絶対にやめたらもったいない。次にやる時も、絶対に観にくるからね。楽しみに待ってるからね。」

こうしてご縁があり、関わらせて頂いたお陰で、これまで役者石山の、様々な顔を見ることができました。

どんなことでも、続けていくのは大変なことかもしれませんが、それでも、また、私も楽しみに待っています。京浜協同劇団の皆様のご活躍と、新しい市民劇、そして、新しい石山海を、舞台上でまた観る日を、楽しみにしています。

お客様はやはり女神様に違いありません

岡野 三郎

東海林太郎役、岡野三郎への架空（自己）インタビュー
5/10（日）@多摩市民館

—お疲れ様でした。公演前半を終えていかがですか。感想をひと言。

いやあ、歌がこんなに難しいとは思いませんでした。アカペラで歌う出だしの音程が掴めないんです。目指すはE♭の音なんですけど、高かったり低かったりその日暮しです。稽古でもびったり出られるのは稀です。まあ、多少低いのは何とか誤魔化せるようにはなってきましたが、高く出過ぎて高音部で破綻する恐怖を常に抱えています。



—悪くありませんよ。拍手が起きたし。

いやあ、今日は多分E♭で入れました。でも、途中で息切れしてブレスの場所を間違え、直後にフラットしました。伴奏付きならまだしも、専門家のように絶対音感を持ってないのが苦しいところです。拍手は嬉しかったです。自分でもびっくり、何て優しいお客様なんだろう。最初に拍手くれた人のところに跳んで行きたかったです。お客様はやはり女神様に違いありません。

—相当練習したんですか。

ええ、私なりに。最初は歌わない設定だったのですが、途中で演出の鈴木さんに「歌ってみる？」って言われて俄然その気になりました。でも、歌が好きなのと歌えるのは別物です。まず、竹中役の中谷麻由子さんが見兼ねてレッスンしてくれました。彼女、声楽科出てるんです。田中役歌姫の中神菜穂子さんからも発声の仕方などのアドバイスを頂戴しました。2人の師匠の存在はラッキーでした。感謝しきれません。でも、上手く行かなくて、地元のヤマハにも行って「一曲レッ



スン]」っていう講座を受けました。その先生も教文センターに観に来てくれます。

—演技の方はどうですか。

ええ、周りのベテランの皆さんからの様々なアドバイスを受けて、鼻持ちならない東海林青年が惣之助の唄への真摯な姿勢に打たれて変化するところが劇的に表現できればと思っています。出番は短いですが、何とか印象的なシーンにしたいと思っています。鬘まで揃えて下さったことに応えなくては。

—今後の予定は？

ええ、11月の劇団公演を成功させなければいけませんけど、その前にミュージカルに出ます。『秘密法ミュージカルを神奈川に呼ぶ会』主催のMusical Guild qによる『Secret Garden—嘘の中の真実—』という作品です。8月21、22日に湘南台での上演が決まりました。初演は去年の10月@中野。秘密保護法の脱法性をミュージカルで描きます。小さい役で、歌うのかも不明ですが、初のミュージカル体験にワクワクしています。

—それでは、後半の教文センター公演のご成功をお祈りします。

有難うございます。決してこけないよう頑張ります。(了)

(追記)

教文公演は高く出て破綻寸前、修行が足りません。先輩・文化の仲間の皆さん、見捨てずご指導下さい。最終日に大きな拍手頂戴し気持ち良かった。お客様は女神様を確信。(京浜協同劇団員)

第1回 旬をたのしむ夕べ

日が落ちてからも酒宴は延々と続いて

二村 柊子

5月17日(日)、五月晴れ。午後5時、およそ40名が劇団屋上に集合しました。初めて上ってきた人も。「ええ! こんな場所があったの?」「いいながめ!!」「屋上庭園みたい……」などなど。

そもそも、陽のあるうちに“宴”をやってみたいね、そんな発想から「旬をたのしむ夕べ」が企画されたのです(ちなみに、8月15日の花火を観る会は暗くなってからです)。

市民劇「華やかな散歩」の稽古は、この催しに合わせて5時前に終了。市民劇参加のキャスト・スタッフ、劇団員、文化の仲間会員が初夏の風に吹かれ「乾杯!」、交流を深めました。



◆メニューは以下のとおりです

刺身(鰹、アコウ鯛、サワラ)、蒸しホタルイカ、新じゃが焼き、新玉ネギのトマト煮、五目寿司、ソラマメご飯、フランスパン、ワラビ・野ブキのおひたし、グリーンサラダ、日本酒・ビール・泡盛



美酒をお持ちくださった方もあり、大にぎわいでした。

日が落ちて少ししてから階下に移動したあとも酒宴は延々と続いていました。



さて第2回目は? あの何十段もある階段を前日から上ったり下ったり。まずは足腰を鍛えてから、それからにしていきたいと思いますなどと思っていますが、とりあえず、ご期待ください。

(文化の仲間・世話人を代表して/5月23日)



先祖の血を素直に受け入れ、威張りも恥じ入りもせず悪びれずに

安達 元彦

懐かしい劇団員——今回はオマケ。

連載を書きながら劇団員の名前を出すときに「故」付きの多いことに驚いていました。それで和田庸子さんに享年を調べてもらいました（含元劇団員）。夭逝が多い。やはり活動が厳しいのかな。山口あきおさん 48 歳、宮崎昌子さん 53 歳、蒔村由美子さん 60 歳、黒澤参吉さん 65 歳、根倉藤子さん 68 歳。70 歳をこえているのは、中沢研郎さん 71 歳、佐藤張二さん・水野哲夫さんともに 76 歳。原科清さん 78 歳。金井いずみさんが例外的に 86 歳。

金井（本名イネ）さんは、ぼくの中では別の意味で例外です。この方は、ぼくからは劇団を好いてくれていた近所のおばさん。公演だけでなく稽古にもしょっちゅう現れて、顔だけでなく体全体で劇団のことが好きで好きでたまらない様をみせてくれていました。そしてぼくにはこの人は劇団を測るリトマス試験紙でした。この人が好いていてくれるかぎりにはたとえどんな問題があろうとも劇団は大丈夫だ、と。好きが昂じて入団してしまわれたようですネ（ぼくは知りませんでした）。ミイラ採りがミイラに？

だからぼくから見た最高齢者は原科さんです。劇団

ではぼくに対する呼称はみなさん「さん」付けなのですが、原科さんからだけは「センセイ」でした。でも、この人からそう呼ばれるとなんだか流しのギター弾きになったような気分がして、くすぐったくウレハズカシいのでした。晩年脳梗塞を患われ術後復帰の舞台が『金魚修羅記』（1997）。稽古で演出から口跡を注意されていました。でも、ぼくには一見不明瞭なその発語が他の誰よりも聞き取りやすくよくわかりました。人がものを言う・ものを聞くということについて改めて考えを促す示唆がありました。葬儀ではピアノの演奏を頼まれ、落語がお好きだったので古今亭志ん生の出囃子と、戦前兵營で大声でうたったと聞いた「たれか故郷を思わざる」と、『母（おふくろ）』（1980）で原科さんの役・老闘士が銃殺された場でうたわれる「どのようにして旗は生まれたか」を弾きました。ギター弾きではなかったけれど葬式芸人の気分。

その原科さんの連れ合いの根倉藤子さんは、劇団歌の生き字引と言われていました。過去の劇中歌を全部覚えている、と。その傍証——2007 年『はだかの王さま』を再演することになったのですが、初演は 1976 年、30 年前。新しく作る歌もありましたが、多



くは前のを使います。が、資料がない。ぼくの手許にも劇団にも楽譜も録音もない。もちろんおぼえてもない(自分で作っておきながら)。それで根倉さんに「うたえる？」と訊いたら軽く「うたえるよ」——みごとに全部うたってくれました。助かったァ〜！ 根倉さんも脳梗塞に。予後はかばかしくなく、持ち前の毅然とした気風の良さは「どこへ？」でした。原科さんを亡くした痛手も尾を引いていたのかもしれませんが。それで思いついたことがあります。根倉さんは40歳代前半に歌をたくさん作っています(詩もほとんどが自作)。それを「うたって録音しようヨ」といったら乗ってきました。毎月2回1年ほどかけて20曲録りました。「どこが脳梗塞ヤッ!？」——ホントに芯から歌が好きなんだネエ。最期の録音は2009年6月29日、亡くなる3日前でした(誰か根倉さんのCDつくらないか？

音源あるヨ)。残念なこと——お孫さんの歌を作せたかったのにできなかった。ぼくの思いつきが遅すぎたのがいまだに悔やまれます。

というわけで、現在最高齢は細田寿郎さん82歳、記録更新中。ホッさん、長生きしてネエ。

その細田さんが〈先祖還り〉とよく言います。たとえば、田舎から都会に出た少年が初めはイモ丸出しなんだけど何年もしないうちにいっばしのシティボーイ

になっていく。だが歳を経て中年から熟年になるにつれてだんだん地が出てきて元のイモに戻っていく、と。それを細田さんがどう評価しているか知りません。でも、そう言われるとぼくにも思い当たることがあります。

ぼくの音楽的親は歌謡曲です。だが10歳代になってクラシック家に養子になります。初めはセレブっぽくいい気分だったんだけど、だんだん住みづらくなって、30歳過ぎたあたりからズルズル落伍し出して当て所を見失う。それでも20年くらいは未練っぽく巷をさまよい、50歳近くなって、親としての歌謡曲の更に親の親、生まれる前に死んで顔も声も知らない遠い祖先としての民謡の血が自分の中に流れているのに気づく。

先祖の血を素直に受け入れ、威張りも恥じ入りもせず悪びれずに自分を生きて行け——細田さんはそう言ってくれているようにぼくには聞こえます。ホッさん、ありがとう。

安達元彦さんの連載は今回で終了となります。次号からは、演出家で劇作家の小田健也さんの連載を予定しています。どうぞお楽しみに。

文化の仲間定期総会 記念演奏会——予告

安達元彦の音楽会 (仮題)

企画・作曲・構成 安達元彦 (+実行委員会 [文化の仲間・京浜協同劇団])

日程 2015年10月4日(日) 午後(予定)(午前中に文化の仲間の定期総会を予定しています)

会場 スペース京浜(京浜協同劇団小劇場)

2015年秋の文化の仲間の定期総会の記念行事は、安達元彦さんの音楽の今を表現する演奏会を計画しています。

日本人の音楽性のルーツを探りつつ、いま、この時点でしか表現できないものを追求する安達音楽の真髓を、参加者で共有できる場になることと思います。

ご期待ください。

詳しくは次号でお知らせいたします。今から日程をあけておいてください。

◎文化の仲間通信◎

◆第 57 回 川崎母親大会

日程 6月21日(日) 10:00～16:30

分科会 10:00～12:00 全体会 13:10～16:30

会場 川崎市中原市民館 2階(武蔵小杉駅)

参加費 700円

分科会 ①戦争と軍隊は文学の中でどう語りつがれてきたか ②子育ての悩み、集まって語り合おう ③メディアを読み取る力を養うには ④くい止めよう、介護崩壊 ⑤はじめから非正規はイヤ、一生派遣はダメ ⑥笑いヨガ ⑦特別企画・福島の子どもの願いを聞いてください

全体会・記念公演 八法亭みややっこの憲法嘯

講師 弁護士 飯田美弥子

問合せ 事務局・照井 044-888-7110

◆山寺圭子 うた・唄・歌 vol.29——愛の花束

日程 6月26日(金) 19:00開演

会場 めぐろパーシモンホール小ホール(都立大学駅)

入場料 A 4,000円 B 3,500円

ソプラノ 山寺圭子 ピアノ 佐藤恵

曲目 橋本国彦 お菓子と娘／ベートーベン Ich liebe dich／中田義直 夏の思い出／武満徹 小さな空／朝岡真木子 一人は賑やか ほか

問合せ 山寺 044-511-8995

◆弾談の会 ぴあへの円座(第2回)

日程 7月13日(月) 14:00～16:00

会場 鈴木たか子宅(丸の内線・新中野駅7分)

参加費 1500円(申込みが必要です) 20人限定

曲目 ベートーベン ピアノソナタ15番 Op.28 二長調「田園」／安達元彦 MIN-YOより

問合せ 鈴木たか子 090-9388-3943

◆協働劇場公演 ふるさとはポイズンの島

2幕6場 うた・お芝居・語りで綴る

戦後70周年記念企画「ビキニから平和を考える」

協力 ビキニふくしまプロジェクト

日程・会場 7月8日(水) 小金井市民交流センター

・13日(月) 座・高円寺

・17日(金) 藤沢市民館 小ホール

入場料 3,000円(各公演とも午後7時開演)

日本の原水爆禁止運動の出発点になった「ビキニ事件」しかしその実相を知る人は決して多くありません。島民たちは、いまだに自分たちの島に帰れず、今なお後遺症に苦しみ「核の難民」となったままなのです。

問合せ 麻生 042-233-5566

◆第33回 みんなでつくった平和公園みんなで行こうコンサート 2015

日程 7月19日(土) 17:00開演

会場 中原平和公園 野外音楽堂

入場無料 賛同金 800円

問合せ 松平 044-411-6402 柳沢 044-422-5638

◆第41回 日本フィル夏休みコンサート

日程 7月24日(金) ①11:00 ②14:00

会場 横浜みなとみらいホール

料金 S席=子供3,200円/大人5,200円

A席=子供2,500円/大人4,200円

B席=子供1,800円/大人3,200円

曲目 第1部 ベートーベン 交響曲第5番《運命》より/ビゼー 《カルメン》より「闘牛士の行進」/ブラームス ハンガリー舞曲第5番/ホルスト 《惑星》より「ジュピター」 第2部 チャイコフスキー バレエ《くるみ割り人形》 第3部 オーケストラの演奏にのってみんなであうたおう(さんぽ/アナと雪の女王より ほか)

問合せ 日本フィル・サービスセンター

03-5378-5911 <http://www.japanphil.or.jp>

◆川崎市民劇場第327回例会

東京芸術座公演 蟹工船《村山知義演出による》

日程・会場

さいわい市民劇場 8月22日(土) 16:00 幸市民館

市民劇場なかはら 24日(月) 18:15

25日(火) 13:30 エポック中原

作 小林多喜二/脚色 大垣肇/演出 印南貞人・川池丈司/出演 北村耕太郎・井上鉄夫・笹岡洋介・神谷信弘 ほか

昭和のはじめ——カムサッカの怒涛の海で未来を切り拓く男たちの壮大なドラマ。キャスト33名の汗が飛び散る!

申込み・問合せ さいわい市民劇場 044-244-7481

市民劇場なかはら 044-455-7950

◆西海亭ライブ

西海亭では、偶数月の第3金曜日午後6時30分から“西海亭ライブ”を開催しています。この時間帯に食事に来ていただくだけで、おいしい中華料理を楽しみながら、合わせてライブを楽しむことができます。

プログラムなどについては西海亭にお問合せください。(044-511-6338)

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃⑩

